原市場が生んだ偉人、山川兄弟

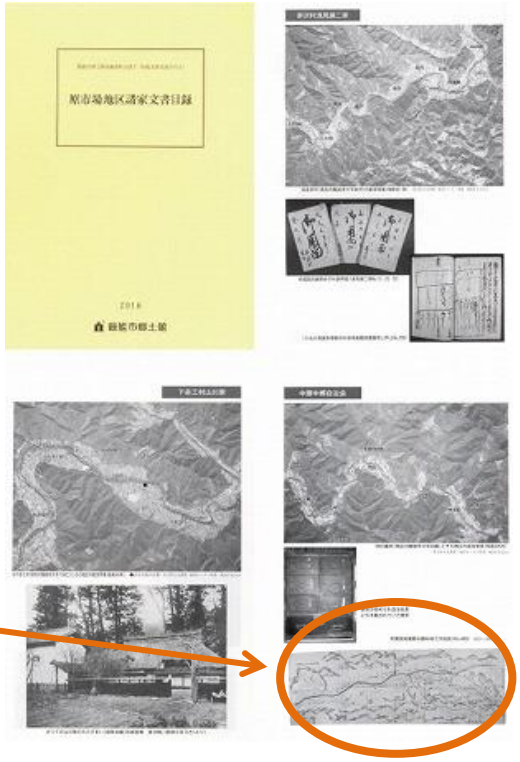
-郷土館収蔵資料目録７『原市場地区諸家文書目録』の成果を中心に-

【番外編　資料目録(古文書)が語る郷土の歴史～後編～】

これまで五回にわたりホームページに載せていただいた本連載も、今回が最終回となりました。最後は番外編後編として、当館が刊行した『目録 7』をどのように活用できるか、いくつかの例を紹介します。

２　資料目録が語る郷土の歴史

(１)郷土学習の入口として-読物としての資料目録-



『目録 7』の口絵や解題は、郷土学習のテキストとして使うことができます。まず、口絵には原市場地区全体の地図や本目録に収録した史料群が所在した赤沢、下赤工、中藤中郷周辺の航空写真、それと各史料群に関わる写真が掲載されています(右写真参照)。これらを見ると、原市場地区の地名や、地形、土地の構成などがわかります。また、中藤中郷のページには村絵図の写真も収録していますので、江戸時代の中藤村の様子を知ることもできます(同史料は、史料集二三頁にもわかりやすい図になって掲載されています)。

解題(資料リストの前に収録されている文章)には、三つの村についてさらに詳しい情報が記されています。村の位置や大きさ、生業や所蔵者のことなど、文書群から読み取れる事柄について、場合によっては他家の文書も使って補いながら書かれているので、ここを読めば村の様子が一通りわかります。

(２)郷土をより深く学ぶ-史料にふれるきっかけ -

より深く学びたい場合は、巻末に収録されている史料集を活用してみるのはいかがでしょうか。史料集は、郷土学習の素材であるとともに、古文書を学習したいと思っていらっしゃる方にはその導入テキストとしてもご使用いただけます。

古文書学習は、翻刻された史料の解読からはじまります。今回は、『目録 7』33 頁に掲載している石井茂樹家 473 号文書を例としてみてみましょう。

この史料は、安政 4(1857)年に作成された文書です。前年に起きた「大風雨」によって流失した材木の不正利用をめぐる裁判に関係したものとなっています。

別紙資料として、文書の翻刻(くずし字を現代の文字したもの)と現代語訳を上下で掲載したもの(別紙資料①)と、原文書の写真と翻刻を上下で掲載したものを添付しました。

前編でも述べましたが、江戸時代の文書は今の日本語と少し違います。平仮名がとても少なく、ところどころ漢文のように文字が返ります。初めに目にすると、たとえ翻刻されていたとしても何が書いてあるのかさっぱりわからないかもしれません。そのようなときはまず、別紙資料①のように、翻刻と現代語訳を見比べてみます。そうすると、単語の切れ目や帰る場所が少しわかりやすくなるのではないでしょうか。

翻刻文に慣れてきたら、崩し字で書かれた原文と翻刻を見比べてみます。最初はどれがどの字なのかわかりにくいかもしれません。しかし、数字などの分かりやすい字や、一つの文書に何回も出てくる文字などから形を覚えると、だんだんどんな時にどう崩すのかがわかってくることがあります。

さて、目録を古文書学習に使う場合ですが、残念ながら目録に読み下し分は収録されておりませんので翻刻と原文書を比べるところからのスタートになります。郷土館では古文書史料の閲覧希望に応じておりますので、巻末の資料集に収録されている翻刻文と対応する古文書を申請いただければ、実物をご覧いただくことができます。

古文書を扱う際にはいくつかのルールがありますが、学芸員がサポートいたしますのでもしご興味をお持ちになった場合は、まずは当館までご連絡ください。

（３）郷土を研究する−原文書を使う−

さらにさらに深く地域のことを研究してみたいという場合は、原文書を読み解いてみましょう。まずは解題の一番うしろにある「文書群の内容」で、目録がどのような文書で構成されているのか確認します。目録は、大分類と小分類の 2 階層にわかれていますので、これらの分類をもとに目録の中から、読みたい史料を探します。

読みたい史料が見つかったら、郷土館へご連絡ください。該当する文書を出納いたします。

３　おわりに

今回は番外編後編として、目録の活用方法について 3 段階に分けてご紹介いたしました。『目録 7』には、地域を知るための材料や要素がたくさんつまっている、ということを少しでも感じていただけましたでしょうか。『目録 7 』が一札あれば、地域入門から研究まで自分の希望に沿った使い方をしていただくことが出来ます。

ぜひさまざまな場面で『目録 7』をご活用いただき、地域の歴史をひも解いてみてはいかがでしょうか。

全六回にわたって、山川家文書を中心に古文書や目録についてご紹介させていただきました。この連載を通して古文書や目録、そして地域の歴史を少しでも身近なものとして感じていただけましたら幸いです。

最後になりましたが、連載を快く快諾してくださった原市場東自治会のみなさまに、心より感謝申し上げます。